

佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート

佐賀大学教職大学院
広報誌 第5号

2021
9月

探究実習で多くのことを学びました

教職大学院では修士課程1年次の必修履修科目として、学部卒業生等学生（以下ストマス）には基盤実習、現職教員等学生（以下現職院生）には異校種実習及び関係機関実習が設けられています。各学校や地域との連携・協働のもと実習を行い、実際に授業実践をしたり、自身の研究の観点を深めたりしました。今回は、各コースでの実習の取り組みについて4名にインタビューを行った内容を紹介します。



教育経営探究コースは8月中旬から9月にかけて、佐賀県教育庁や佐賀市教育委員会、東部・西部教育事務所の内2ヶ所で計4週間実習を行いました。各々が、修士課程2年間の研究テーマに基づき、綿密な計画を立てた上での実習だったため、非常に充実したものとなりました。また、各所属校や教職大学院では経験できない、関係機関における業務も行うことができ、今後の研究に留まらず、これからの私たちの教職人生において大いに役立つ貴重な時間を過ごすことができました。今回の実習を糧に、後学期の講義や演習、各自の研究に励んでいきます。（現職Tさん・関係機関実習）

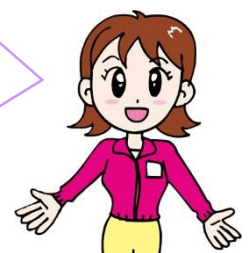
子ども支援探究コースは、特別支援系の大学院生が、金立特別支援学校にて学校変革基盤実習を20日間、生徒指導・教育相談系の大学院生が児童相談所と教育支援センターのそれぞれで、関係機関実習を10日間行いました。基盤教育実習では、発達段階に応じた支援や、医療的ケアが必要な子どもへの対応などを学ぶことができました。また関係機関実習では、業務内容や支援の在り方、連携・協働体制などを明らかにすることができました。実習での学びを今後の研究に活かしていきます。（現職Nさん・関係機関実習）



授業実践探究コースの現職院生は、現任校とは異なる校種で実習を行い、私の場合は幼稚園にて実習を実施しました。眼を輝かせながら遊びや学びに没頭する子どもたちと関わり、充実した毎日でした。また、発達の違いやそれに合わせた教師の関わりについて考えることができました。（現職Sさん・異校種実習）

ストマスの探究実習では実習校において、授業観察や授業実践だけでなく、朝の会や帰りの会で話をしたり、掃除や給食、部活動の指導を行ったりなど、教師としての様々な仕事を体験することができました。また、全学年の授業を担当したことで、生徒の様子を把握することもできました。来年度はこの実習の経験を生かしつつ、研究の視点も取り入れた授業を実現できるように努めます。

（ストマスFさん・基盤実習）



編集者 N&K